

5年 わたしの地図活用

資料・統計を利用した主題図づくり

青森県つがる市立柏小学校 平川公明

1 表現と思考の一体化をめざして

資料・統計を利用し「りんご生産の多い都道府県」「工業生産額が多い都道府県」などの主題図をつくらせる活動は、社会科授業の中でも最もポピュラーな学習活動の一つである。

しかし、それらの授業の中には、主題図をつくらせる意義を学習技能の向上に限定して捉え、完成させること自体を目的化してしまっているものも少なくない。

本来、主題図づくりなどの表現活動は、子どもの社会的な見方や考え方を育成するための一つの手段であり方法である。したがって、「表現したことから考える」「考えたことを表現する」など思考と一体化してなされることにこそ意義がある。

以下本稿では、表現と思考の一体化を意図して構成した5年「野菜生産のさかんな地域」（全3時間）の実践を紹介する。

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.59
②日本各地の農業



2 野菜生産、青森県のライバルを主題図に

① 青森県でさかんに生産されている農産物を調べる。

導入で『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下、地図帳）p.59の「②日本各地の農業」を見せたところ、子どもから「やっぱり青森県はりんごだけか…」というため息混じりのつぶやきが聞こえてきた。そこで、地図帳の100万分の1の地図（p.40）に記されている産物記号を調べさせることにした。そして、りんご以外の以下の記号を発見・発表させ、自分たちが暮らす青森県でさかんに生産されている農産物として確認した。

メロン		ごぼう		ながいも	
なたね		にんにく		だいこん	
さくらんぼ		にんじん		たばこ	

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.40より

② りんごの生産量ランキングを表にまとめる。

次に、地図帳p.63「⑥おもな農作物の生産」の帯グラフをもとに、都道府県別りんごの生産量ランキングを表にまとめさせた。もちろん1位は青森県。なお、このときグラフの基本的な見方として「その他」は順位に加えない旨指導を加えた。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.63

⑥おもな農作物の生産

③ 青森県でさかんに生産されている野菜の生産量ランキングを調べる。

「では、他の野菜は何位なのだろう？」先に確認した青森県でさかんに生産されている野菜（前

述の9種類からさくらんぼ・たばこ・なたねを除いた6種類)の中から1つずつ選択させ、都道府県別の生産量ランキング上位を調べさせた。その際、資料として帝国書院のHP (<http://www.teikokushoin.co.jp/>)にある統計を利用した。ごぼう・にんにく・ながいも(やまのいも)が1位、だいこんが3位という青森県のランキングの高さに子どもたちは大喜びだった。

④ 主題図「○○の生産が多い都道府県」をつくる。

「調べた結果を地図に表現しよう。」教師が作成した主題図「りんごの生産が多い都道府県」を参考例として提示し、先の段階で調べた野菜について地図上に都道府県別のランキング上位と生産量を記入させた。

⑤ 作成した主題図と気候に関する資料を比較し、学習問題を設定する。

作業後、まず教師が作成した主題図「りんごの生産が多い都道府県」と地図帳p.58の気候に関する資料を比較させ、気づいたことを発表させた。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.58④気温のようす

「りんごは夏涼しく冬寒い県で多く生産されている。」「りんごは寒いところの方がよく育つんだよ。」子どもたちは自信満々に発言した。

そこで次に「みんなが調べた野菜はどうか？」と問いかけると、子どもたちの中から徐々に「おかしい。」「どうして？」などの声が…。ごぼうにしてもにんにくにしてもほとんど寒冷地が占めて

いる産地の中に必ず宮崎県や徳島県などの温暖な県も含まれていたのである。同様の傾向は、青森県でさかんに生産されている6種類の野菜すべてに見られた。「その県の気候にあった野菜をつくっていると思ったのに…」子どもとともに次の学習問題を設定した。

なぜ、同じ野菜が寒い県でも暖かい県でもさかんに生産されているのだろう。

⑥ 予想を立て調べる。主題図に書き込む。

子どもの予想としては「6種類の野菜は寒くても暖かくても、どちらでもよく育つ野菜なのではないか。」という意見がほとんどだったので、インターネットの野菜ブック (<http://vegetable.alic.go.jp/yasaibook/index.html>)でそれぞれの野菜づくりに適した気温などを調べさせた。そして、子どもは春夏にんじん・秋にんじんなど季節ごとに野菜の産地が変わる事実を突き止めた。その土地の気候に合わせその野菜生産に適した季節に生産されていたのである。最後に、学習問題と予想、調べてわかったことを主題図の下にまとめさせ、3時間の授業を終えた。

3 本実践を振り返って

本実践の意義は次の二点である。第一に、主題図完成後に気候に関する資料と比較させることによって、「表現したことから考える」授業を実現させることができた。第二に、地図帳やインターネットの豊富な資料に支えられ、調べる野菜を選択するという一人ひとりの興味・関心に応じた学習の複線化をはかることができた。

一方、「考えたことを表現する」という部分では更なる工夫・改善の余地が残された。本実践では、思考過程を単に言葉と矢印で表現するに留まっている。今後は、思考が深まる中で主題図そのものの表現も見直されていくような授業を開発・実践したい。